

名古屋大学博物館野外観察園展示室の展示記録
2011年4月から11月まで
Record of the display at the Nagoya University Museum
Botanical Garden exhibition room
from April to November 2011

吉野奈津子 (YOSHINO Natsuko)¹⁾

1) 名古屋大学全学技術センター

The Nagoya University Technical Center, Chikusa-ku, Nagoya 464-8601, Japan

名古屋大学博物館野外観察園展示室では2011年4月から11月までに名古屋大学博物館のサテライト展示を4つ行った。本報告はその記録である。展示の企画、展示者との調整は野崎が行い、会期中の管理は吉野が行った。展示物に関しては展示者が作成を行っている。

1、三矢 保永 写真展 「空・雲・光」

主催：名古屋大学博物館

会期：2011年4月18日(月)～5月27日(金)

入園者数：333人

担当：野崎ますみ

撮影者プロフィール

本職のかたわら、山登りを趣味とし、ついでながら山の写真を撮っている。光と雲と山の彩りが主な撮影対象。見上げる姿勢がこうじて、最近は肩や首筋の凝りに悩むようになった。

チンタラハイキング会「オルフェウス山の会」を主宰。

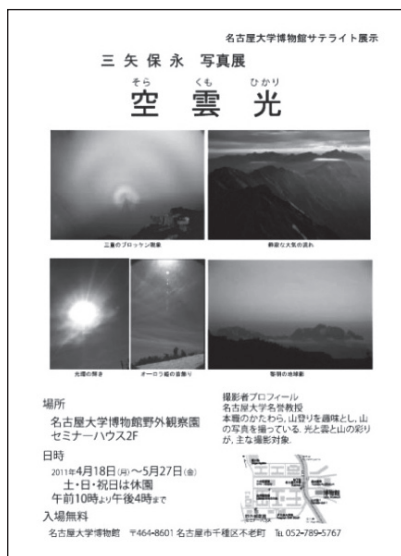


図1. ポスター



図2. 展示会場の様子

本職は、ナノテクノロジーを機械工学的な技術により実用化する研究と教育に従事している。
光と雲の織りなす光学現象や、めずらしい自然現象の写真によって、美しい自然を守る大切さをくみ取っていただければ幸いです。

表1. 作品リスト

	作品名	撮影地
1	黒部東沢溪谷の黎明	水晶小屋
2	地球影に浮かぶ立山・剣岳	唐松岳
3	地球影と満月	剣御前小屋前
4	ヘリオスの出発	白馬岳
5	湖上に陽が昇る	米国イエローストーン湖
6	空翔る竜雲	白馬岳
7	雲と山の間	白馬岳
8	山影映す大画面	雲ノ平
9	げんこつ雲	白馬岳
10	くらげ雲	名古屋大学
11	王冠雲の造形	白馬朝日岳（前朝日岳）
12	綿雲のなかに横たわる雲	荒島岳
13	サモトラケのニケ	餓鬼岳
14	陣笠雲	白馬岳
15	大気の静寂な流れ	針ノ木岳
16	レンズ雲と入道雲	北アルプス黒部東沢溪谷
17	地球影の中は紫色	白馬岳
18	太陽柱と火焰雲	八ヶ岳連峰権現岳
19	彩雲（瑞雲、五色雲）	薬師岳登山道
20	オーロラ姫の首飾り	美濃大日ヶ岳
21	環天頂アーチ	名古屋市表山
22	山上の幻日	白馬岳
23	三重のブロッケン現象	前穂高岳
24	光環	天白川河川敷
25	伸びた太陽	千枚小屋
26	浮き上がる水平線	雲ノ平
27	飛行機ブロッケン	英国ハイランド地方
28	ペンダントの輝き 映日	ベーリング海上空
29	雲がでやすいところ	インドシナ半島上空
30	飛行機から見る地球影	沖縄上空
31	眼下の虹	インドシナ半島沖合上空
32	主虹と副虹	名大工学部2号館屋上

2、アフガニスタン写真展 「名古屋大学中央アジア栄養適応調査—1968—」の記録

主催：名古屋大学博物館
 会期：2011年6月2日（木）～8月31日（水）
 入園者数：137人
 担当：蛭薙観順、野崎ますみ

アフガニスタン写真展

名古屋大学は1968年に芦田 淳（元名大大学長）を隊長として、北部アフガニスタンの人々の栄養適応を調査する学術調査隊を派遣しました。この調査隊の記録は名古屋大学博物館の第5回特別展として公開しました（右ポスターを参照）。特別展では、学術的内容や当時の写真や映画を中心に展示しました。

今回の写真展は、特別展で紹介された写真の一部を紹介します。

内戦などの混乱で国土が荒廃する以前のアフガニスタンの人々の生活を隊員のレンズをとおして、かいま見ることができます。



図3. ポスター



図4. 展示会場の様子

3、学生によるミニ展示 「生き物のかたちとおもしろさ」

主催：名古屋大学博物館

会期：2011年9月20日（火）～10月15日（土）

入園者数：41人

担当：西田佐知子、NUMAP

ごあいさつ

野外観察園でみられる植物や虫たちを素材として、名古屋大学の学生たちが展示制作に挑戦しました。

宇宙、文学、機械・・・博物館に集まったかれらの専門はさまざまです。そんな学生たちは一体どのような切り口から課題に取り組んだのか！？

ぜひ皆さんの目でお確かめください。



図 5. ポスター

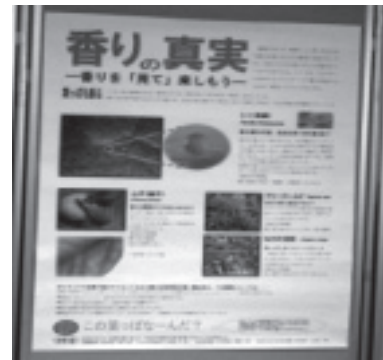


図 6. 展示作品 2

4、サイエンスイラストレーション・サマースクール 2011

「サイエンスイラストレーション入門」受講生作品展

主 催：名古屋大学博物館、名古屋大学サイエンス・コミュニケーション推進室、
名古屋大学高等教育研究センター、ジョーンズ・ホプキンス大学医学部 Art as Applied to
Medicine 専攻

会 期：2011年10月20日（水）～11月11日（木）

入園者数：103人

担 当：藤吉隆雄、野崎ますみ



図 7. ポスター



図 8. 展示会場の様子

この夏、日本ではなじみの薄いサイエンスイラストレーションの入門コースが名古屋大学で行われました。コース創設 100 周年を迎えた米国ジョーンズ・ホプキンス大学医学部 Art as Applied to Medicine 専攻から David Rini 准教授が来日。ハンドワークと PC ワークの両方を使ったオブザベーション・ドローイングの実践成果を展示します。

(2011 年 10 月 14 日受付)